



自由の翼を持つために！ シンフォニアで良い趣味と技を学ぶ 赤松 林太郎 (あかまつ・りんたろう)

PROFILE

世界的音楽評論家ヨアヒム・カイザーにドイツ国営第2テレビにて「聡明かつ才能がある」と評された2000年のクララ・シューマン国際ピアノコンクール受賞がきっかけとなり、本格的にピアニストとして活動始める。

1978年大分に生まれ、2歳よりピアノとヴァイオリンを、6歳よりチェロを始める。幼少より活動を始め、5歳の時に小曽根実氏や芥川也寸志氏の進行でテレビ出演。10歳の時には自作カデンツァでモーツァルトの協奏曲を演奏。1990年全日本学生音楽コンクールで優勝して以来、国内の主要なコンクールで優勝を重ねる。神戸大学を卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院にてピアノ・室内楽共に高等演奏家課程ディプロムを審査員満場一致で取得（室内楽は全審査員満点による）、国際コンクールでの受賞は10以上に及ぶ。ピアノを元吉明子、熊谷玲子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、フランス・クリダ、ジャン・ミコー、ジョルジュ・ナードル、ゾルターン・コチシュ、室内楽をニーナ・パタルチェツ、クリスチャン・イヴァルディの各氏に師事。

国内各地の主要ホールはもとより、アメリカ、ロシア、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、台湾、コロンビアを公演で回る一方で、2016年よりハンガリーのダヌビア・タレンツ国際音楽コンクールの審査員長を歴任しており、近年はヨーロッパ各地で国際コンクールやマスタークラスにも多数招聘されている。

これまでに新田ユリ、手塚幸紀、堤俊作、西本智実、山下一史、マルク・アンドレーエ、デアーク・アンドラーシュ、ミロスワフ・ブワシュチック、タラス・デムチシンの指揮のもと、東京交響楽団やロイヤルメトロポリタンオーケストラ、ロイヤルチェンバーオーケストラ、デュッセルドルフ交響楽団、ドナウ交響楽団シレジア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。キングインターナショナルから《ふたりのドメニコ》《ピアソラの天使》《そして鐘は鳴る》《インヴェンションへのオマージュ》《ブルクミュラー 25&18の練習曲》《わたしを泣かせてください》をリリース。新聞や雑誌への執筆も多く、著書に『赤松林太郎 虹のように』（道と書院）、『3年後、確実にクラシック・ピアノが弾ける練習法 ショパン編』（リットーミュージック）、『徹底解説 バッハ〈インヴェンション&シンフォニア〉弾き方教え方』（音楽之友社）がある。

現職は洗足学園音楽大学客員教授、大阪音楽大学特任准教授、宇都宮短期大学客員教授、ブダペスト国際ピアノマスタークラス教授、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会評議員、カシオ計算機株式会社アンバサダー。

1部 演奏とレクチャー

レクチャー

「シンフォニアって何？」

演奏プログラム

- ・ J.S.バッハ = 赤松林太郎 主よ人の望みの喜びよ
- ・ J.S.バッハ = ジロティ 前奏曲 ♭短調
- ・ J.S.バッハ = ケンプ ラルゴ
(チェンバロ協奏曲第5番より)
- ・ F.ショパン ♭マンス
(ピアノ協奏曲第1番より)
- ・ F.ショパン ポロネーズ第6番 Op.53「英雄」

～ 休憩 ～

2部 公開レッスン

上野 なのは 宇都宮短期大学附属高等学校音楽科2年

S.プロコフィエフ ピアノソナタ第3番イ短調 作品28
「古い手帳から」

中嶋 悠介 宇都宮短期大学音楽科1年

F.ショパン エチュード Op.25-10 ♭短調
F.リスト パガニーニ大練習曲集s141より
第2曲 オクターブ 変ホ長調